

## ピアノ アドバイザー



### 菅原 望

宮城県仙台市出身。

第31回ピティナピアノコンペティション連弾部門において最優秀賞（最高位）ならびに洗足学園前田賞、ANA賞受賞、第36回ピティナピアノコンペティション特級部門においてグランプリ、ならびに文部科学大臣賞、東京シティフィル賞、王子ホール賞、読売新聞社賞、学生審査員賞の各賞を受賞。

日本各地での演奏の他、ハンガリー、オーストリア、ポーランド等多くの音楽祭や演奏会にピアノソロ、室内楽、協奏曲で出演し好評を得る。

これまでにパスカル・ヴェロ、山田和樹、山下一史各氏指揮の仙台フィルハーモニー管弦楽団、ダグラス・ポストック指揮の芸大フィルハーモニア、岩村力指揮の東京フィルハーモニー交響楽団、宮本文昭指揮の東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、西本智実指揮、イルミナートフィルハーモニーオーケストラ、金井俊文指揮のドナウ交響楽団、国立歌劇場ファイロニーオーケストラ等多くのオーケストラと共演。伊東ゆかり、大石祥之、手塚真人、尾形牧子、高田匡隆、下田幸二、赤松林太郎、角野裕各氏に師事。

その他ピオトル・パレチニ、エンリコ・パーチェ、アンドレア・ボナツタ氏他、様々な名ピアニスト、指導者の薫陶を受ける。

常盤木学園高等学校、東京藝術大学、同大学院を修了。大学卒業に際し同声会賞、芸大クラヴィーア賞、アカンサス音楽賞を、大学院修了に際し芸大クラヴィーア賞、大学院アカンサス賞を受賞。

大学院修了後、ハンガリー国立リスト・フェレンツ音楽院に留学。コンチェルト5曲など最高難度の課題を持つOne year Piano Soloist Courseにその年度唯一の合格者として入学。最高評価を得てディプロマ取得。カールマン・ドラフィ、ジョルジュ・ナードルの各氏に師事。

現在は演奏とともに東京藝術大学音楽学部ピアノ科、宇都宮短期大学音楽科・同附属高等学校音楽科、常盤木学園高等学校音楽科講師として後進の指導に力を入れている。

# 大ホールでの演奏のコツ！！

## 1. 指は鍵盤に集中して、耳は弦や空間に意識を！

ピアノの音は当たり前ですが鍵盤から鳴っているわけではありません。大きなホールになればなるほど、ピアノより音が響く空間の面積の方が大きくなります。耳を広く、ピアノの音がどう空間に飛んで行くか、溶け込んでいくかをよく聴きましょう！



## 2. ホールのにおいを感じてみよう！

緊張すると頭がぼーっとしたり震えたり、五感が感じにくくなります。そんな時は焦って弾き出さず呼吸を整えて、ホールのにおいをかいでみましょう！

## 3. 姿勢に気をつけて、ピアノと体の空間を潰さないように！

緊張すると前のめりになる事が多く、ホールに音を響かせにくくなってしまいます。自分の胸から音が出て行くようにイメージして、ピアノの向こう側へ音を飛ばすイメージをもってみましょう！

## 4. 1つ1つの音が繋がっていくことを感じて！

楽譜を読む時からホールをイメージして耳を広く使い、音の広がりを楽しんでください！発音の瞬間を聴くことはもちろんですが、1音出た後にその

音が次の音に繋がるその時まで大切に聴きましょう！特にゆっくりの曲はその意識を持つととっても綺麗にホールに溶け込んでくれます！！



## 5. ペダル、要注意！！

普段の踏み方のままでホールでも…それは要注意！ペダルは踏む深さはいつも耳と相談しなければなりません！ペダルは和音の変化や音の濁りはもちろんですが、左右のバランスが美しいと効果は何倍にもなってくれます！

## 6. ホールでの本番で大切なのは音だけではない！

あなたが一步舞台に歩き出したときからステージは始まっています。1音目を出す前の空気感、最後の音の切れ目、曲の中に出て来る休符、全てに気持ちを込めましょう！

## 7. 重心を意識！！

広いホールで音を響かせる為には鍵盤にしっかりと体重をのせることが大切です。椅子に座ったらお尻で身体を支えている感覚を持ちましょう！重心が浮いてしまうとせっかく指がしっかりしていても音が浮いてしまいます！



## 8. ステージはあなたのもの！！

色々気をつけるべきことを書きましたが、一度ステージにあがったらその時間はあなたのもの！！せつかくですから出てくる時からおじぎ、振る舞い、こうした場所では恥ずかしがらず堂々とするのが1番かっこいいのです！！

それまでの努力を信じて、あなただけの時間を精いっぱい楽しんでください！！

# 下野新聞電子版

25 地域

2020年(令和2年)7月19日(日曜日)

【宇都宮】新型コロナウィルスの影響を受け音楽演奏会などが軒並み中止になる中、宇都宮短大音楽科などは18日、下荒針町の須賀友正記念ホールで、中高生向け楽器レッスン「大ホール独り占め企画」を始めた。参加者は、無観客ながらホールの空気、音の響きを感じ演奏を楽しんだ。

同日は、500人収容のホールで、15人がピアノの名器「スタインウェイ」を弾いた。1人20分。参加を予定していたコンクールなどの多くが中止になった栃木市東陽中3年石川真梨亜さん(14)は、シューベルトのソナ

## 音楽ホール 独り占め

### 宇都宮短大 中高生に楽器レッスン



大ホールを「独り占め」してレッスンを受ける中学生

タを演奏。第36回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ受賞者で東京芸大、宇都宮短大講師の菅原望さん(30)が「響きは上に向かって、左手はささやくように」などワンポイントアドバイスをした。演奏後、石川さんは「観客がいる時と違って、自分だけのホール、ピアノを感じた。楽しかったし、気持ちよかった」と語った。菅原さんは「観客がいなくても、演奏の時は自分が主役と思って自由に弾き込む。」(山崎一洋)

この機会にその自由さや、いわゆる『ホール感』を感じてもらえることはいい」と話した。

独り占め企画は月1回催す予定で、ピアノに加え、管楽器の演奏も受け付けている。無料。同短大ホームページから申し込める。